

# 1 FD ワークショップ開催報告 2016年2月18日(木) 10:00～

去る2月18日に、本学におけるアクティブ・ラーニング推進を目的として、今年度、甲南プレミアプロジェクト「ICTを活用した先進的学習支援（BYOD・双方向授業等）」にて導入した教育ツールをご紹介すると共に、授業での活用方法を実際に体験するFDワークショップが開催されました。

## セッション1

### 共働学習システムによるグループ学習 (Tide Break)

(マネジメント創造学部 井上明先生、  
協力会社：富士電機 IT ソリューション株式会社、株式会社プリンストン)



井上明先生より Tide Break の活用授業例が紹介され、(株)プリンストンのご協力により実演が行われた。

Tide Break は、簡単にいえば、1台のホストPCとホスト用ソフトウェアを用意するだけで、接続している複数のPC、スマートフォンが同一のPC画面を共働で操作することを可能とするソフトである。紹介された授業例では、グループ学習において、プレゼンテーション資料や、Webページを作り上げる場面で活用されていた。その後の実演でも強調されていたが、Tide Breakを学習に取り入れた際の利点は、学生同士・学生と教員がディスカッションをしながら、互いの用意した資料・情報をPC上で簡単に交換・共有すること、また、同一のPC画面においてリアルタイムに共同作業の到達点を確認しながら、さらに協働編集を進めることにより、その場で効率的に共通の成果物を作り上げることを可能とする点に見いだされる。加えて、Tide Breakを取り入れる手順が簡単であることも、魅力の1つとなっている。

共通の成果に向かって双方向・多方向での作業への参加を可能とし、また、成果への到達速度を上げるものであるという点で、Tide Breakは、まさにアクティブ・ラーニングを推進させうるツールであるとの印象を強めるとともに、グループ学習以外での活用法にも関心が持たれた。

## セッション2

### クリッカーによる双方向授業 (Turning Point)

(理工学部物理学科 秋宗秀俊先生、  
協力会社：キーパッド・ジャパン株式会社)



秋宗秀俊先生より、教育現場におけるクリッカーの活用方法について説明があり、物理学科の卒業論文発表会で使用したことや、小テストの結果を集計するのに便利であることが紹介された。

クリッカーには一つひとつIDが割り振られており、このことを利用すると学生の成績管理が可能とのことであった。続いて、キーパッド・ジャパン(株)によるクリッカーを使った実演が行われた。ワークショップ参加者には、受付時に「Turning Point」というクリッカーが渡され、軽量かつ手のひらサイズで、その使用もとても簡単だったので、学生は、手にしてすぐに使えることを実感できた一方、教員側には十分な事前準備と、専用ソフトウェアについての知識が必要であることが分かった。

クリッカーは文系・理系問わず、アクティブ・ラーニングの質を向上させるのに便利なツールだと思われ、教員と学生がクリッカーを気軽に使用できる環境が整えば、講義や実習での利用が広がることが期待される。

## セッション3

### BYODによる学習支援 (MODAC、MOVALI)

(マネジメント創造学部 井上明先生、協力会社：株式会社内田洋行)



学生はノートPCを使ってはいるが、Officeとインターネットしかやっていない。では、スマートフォンを勉強用のツールとして利用したことがあるか?について調査すると、77%の学生が利用経験ありと答えている。その利用目的の主立ったものは、30%がMyKonanの掲示確認、10%が履修登録であり、授業資料を参照する学生もいる。賛否両論あるが、スマートフォンが勉強のツールとして使える時代がやってきたのではないかとということで、MODAC、MOVALIを紹介する。

MODACは「スマートデバイスをパソコンの代わりに」ということで、スマートフォンをディスプレイやキーボードにつなぐことができるシステムである。今やMicrosoftOfficeがスマートフォンでも使えることから、マネジメント創造学部では授業でテスト利用してみたところ、グループワークでノートPCを忘れた・持ってこない学生が使っている。ノートパソコンも接続できることから、西宮キャンパス内に幾つか設置し、卒論指導やラウンジで利用に慣れてもらう試みがなされている。岡本キャンパスでは5号館3階のラーニングコモンズ、2号館1階のグローバルゾーンに設置しており、ぜひ使ってみて欲しい。

MOVALIは、いわゆるスマホアプリ(iPhoneはAppStore、GoogleはGooglePlayからダウンロード可能)である。機能は「グループによるファイル共有」と「クリッカー」で、グループは学生自身が作ることができる。各機能については、まず「グループによるファイル共有」は、資料配布・共有・コメント機能を有し、先生→学生だけでなく学生→学生や、学生→先生のやり取りも可能とした。次に「クリッカー」は、事前に質問を作成し、学生のスマホアプリで回答、先生端末で回答結果が確認できる、というもので、授業の感想などコメントも書いてもらえる機能である。最近の学生は、SNSのようなツールの活用やグループを作ることに慣れており、MODACとあわせて、共同学習を補助するツールとしての活用が期待される。

## 2 出張報告

### FD 研修会

### 「学習成果に基づく授業の設計・実施・評価 インストラクショナルデザインの視点から」

2016年2月22日(月)

主催・開催場所：神戸薬科大学

講師は東京工業大学教育革新センター（CITL）の渡辺雄貴先生であり、CITLの活動内容、インストラクショナルデザイン（授業設計）の考え方、アクティブ・ラーニングの必要性についてのお話がありました。

東京工業大学では今年4月に教育改革を行い、組織やカリキュラムが大きく変わるそうです。学生の教育環境に関しては、学習コンテンツの充実化、修士学生による授業支援を効率化するための学生研修制度の導入、英語による授業の実施（修士課程以上では目標100%）がその柱になっています。講義室の改築やオンライン学習の整備といったハード面も整備され、教員のFDに対する関心も高い（今年度は全教員の1/4以上が自主的にCITLのFD研修会に参加した）そうです。研究力が高い東京工業大学であっても、学生の教育に力を入れようという強い意気込みを感じました。

インストラクショナルデザインに関しては、教育活動の効果・効率・魅力を高めるには教員の意識変化が必要であることが説明されました。教員が経験してきた“昔の教育システム”は今の学生には機能せず、これからは、学生の学習へのモチベーションを高めたり、知識や技術の修得に必要な時間を短くするための授業を行わなければいけないという内容でした。これを実践するには、学生の学習成果に基づいて授業内容を設計することが求められ、この取組みの重要性は「学習成果に基づく授業の設計・実施・評価」という演題に現れています。アクティブ・ラーニング型授業の導入にあたり、インストラクショナルデザインの必要性と具体的な方法を知ることができた研修会でした。

（報告：フロンティアサイエンス学部 中野修一）

### 6 大学合同 FD・SD 研修会「カリキュラムの体系化と可視化」

2016年3月2日(水)

開催場所：学習院大学

6大学合同FD・SD研修会は、以前より親交深い6大学（成蹊、成城、武蔵、学習院女子、学習院、甲南の各大学）で持ち回りで開催しているものです。今回、甲南大学からは、教員が2名、事務職員が4名参加し、京都大学高等教育開発推進センターの山田剛史准教授を講師にお招きし、講演とワーク・ディスカッション形式で研修が進行されました。

前半部分の講義では、カリキュラムのコースツリーを作るための考え方と、押さえておくべき視点についてご教示いただきました。講演では、まず、ディプロマポリシー（DP）、カリキュラムポリシー（CP）、アドミッションポリシー（AP）のいわゆる3ポリシーを取り上げ、カリキュラムマップはDPから逆算する形で作成すべきである、という基本戦略をご説明いただきました。と同時に、DPは社会人基礎力を意識するとどの大学も似たものになってしまうことから、CPによってその大学らしさをアピールする必要がある、とのご指摘をいただきました。それらの背景をふまえたうえで、現状をべ

ースにカリキュラムマップを作成し、DPとの整合性を点検する、というアプローチが紹介されました。DPとの不整合が見つかったら、授業を増やす、授業内容を変更する、DPを変更する、の3つのパターンのいずれかで対応することになるだろう、というご説明をいただきました。

午後のワーク・ディスカッションでは、学んだことを実際に試すということで、大学毎にチームを作り、自校のカリキュラムマップの作成と点検を実施しました。本学のチームでは、基礎共通科目を題材にとりあげ、本学のDPを参考にしながら、共通教育科目に求められる内容を検討し、開講科目を整理してカリキュラムマップを作成しました。ワークを通じ、本学の特色をより活かしたカリキュラムとするため共通基礎科目の中でどのような工夫が可能か、短い時間ながらも参加者の中からいろいろなアイデアが出され、大変有意義な時間を過ごすことができました。

（報告：教育学習支援センター 篠田有史）

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

大学トップ ▶ センター・研究所・図書館 ▶ FD — 甲南大学のFDへの取り組み —

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。  
教育学習支援センター事務室 TEL078-386-4312(内線5851) MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp